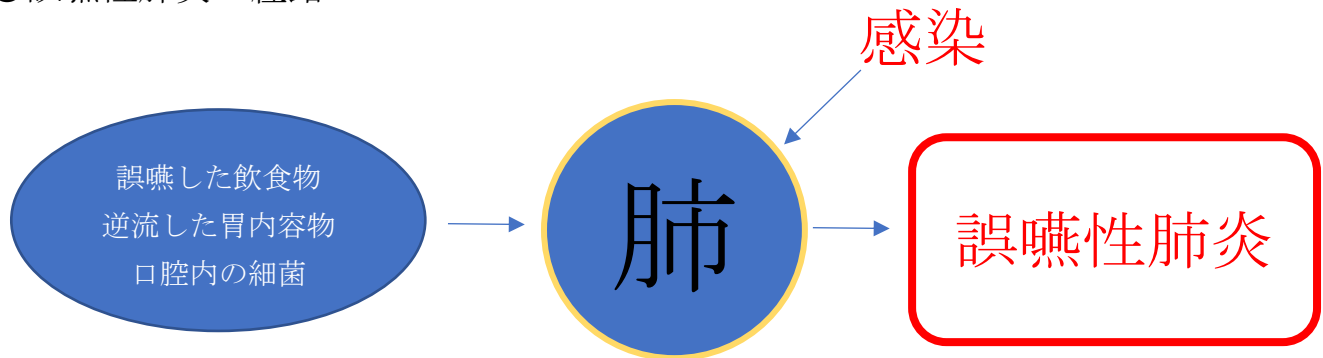


# 誤嚥性肺炎【ごえんせいはいえん】

日本人の死亡原因の3位である肺炎(平成28年厚生労働省発表資料)

の中でも、特に高齢者に多い誤嚥性肺炎は、唾液や飲み物、食べ物が誤って気管から肺に入り込んでしまう誤嚥の際に口腔内の細菌が肺に入ってしまうことで起きます。口腔ケアで口腔内細菌数を減らし、飲み込みの機能を維持向上することで誤嚥性肺炎発生率を下げる効果が期待できます。

## ●誤嚥性肺炎の経路

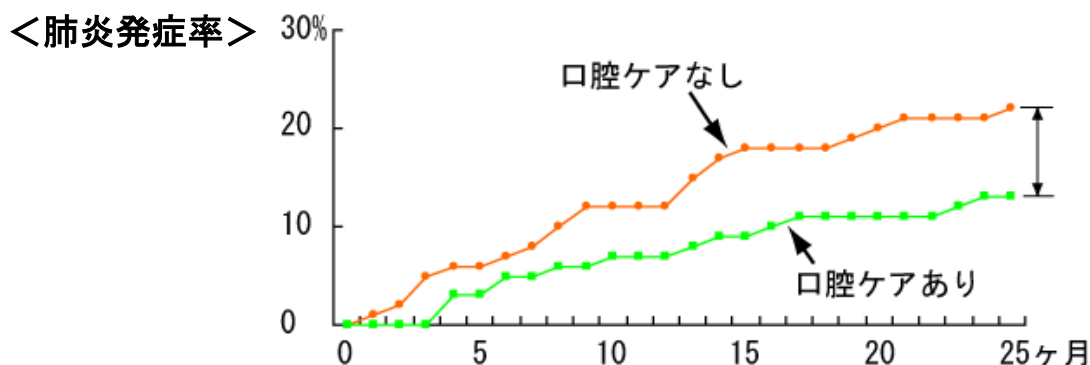


飲み物や食べ物を飲み込む動作を嚥下【えんげ】と言い、食道を通過して胃に運ばれます。健常者でも誤嚥はしますが、吐き出そうとする動作(咳やむせ)により気管から出そうとします。誤嚥により口の中の細菌が気管や肺に入り込んでも、体力や抵抗力・免疫力により細菌を駆除できるので、生活していく上でさほど影響はありません。

しかし高齢や脳の病気などの影響により嚥下機能の低下がある場合、うまく飲み込めず、誤嚥した際の咳やむせといった動作が鈍くなり、気管への誤嚥を招いてしまいます。誤嚥によって口の中の細菌が気管や肺に入ってしまう、体力・抵抗力・免疫力の低下などにより細菌を駆除することができず、細菌性の肺炎にかかる危険度が増します。

## 口腔ケアの必要性

日常の歯磨きや入れ歯の清掃・手入れなどを行っていない場合や不十分な場合、口の中で細菌が繁殖を続けています。口の中をきれいにすることで細菌を減らし、誤嚥性肺炎のリスクを低減させることができます。



(米山武義ら:要介護高齢者に対する口腔衛生の誤嚥性肺炎予防効果に関する研究、日本歯科医師学会会報誌 2001 より引用)